

## 「Cラーニングによる授業改善の効果」

東京未来大学 皆川 順

### 1.活用の目的

- (1) 出欠確認での時間節約
- (2) 携帯使用による学生の学習意欲向上
- (3) 講義のフィードバック (教師・学生双方へ)

### 2.活用している講義

教育心理学Ⅰ、教育心理学Ⅱ (同一内容；受講学生の関係で分割)  
パーソナリティの心理

### 3.日頃の学習指導ツール・・・「概念地図法」「連想課題」

事前知識の量および体制化度合い評価→知識体制化指導へ

### 4.講義における問題点

#### ・授業者 (皆川) 側[\*学生等の指摘による]

- (1) 声が聞き取りにくい。(\*発音、かつぜつ)
- (2) 講義の進み方が速い。(\*実際はシラバスの40%程度まで)
- (3) 出欠確認に時間を取り過ぎる。

#### ・学生側[皆川の判断による]

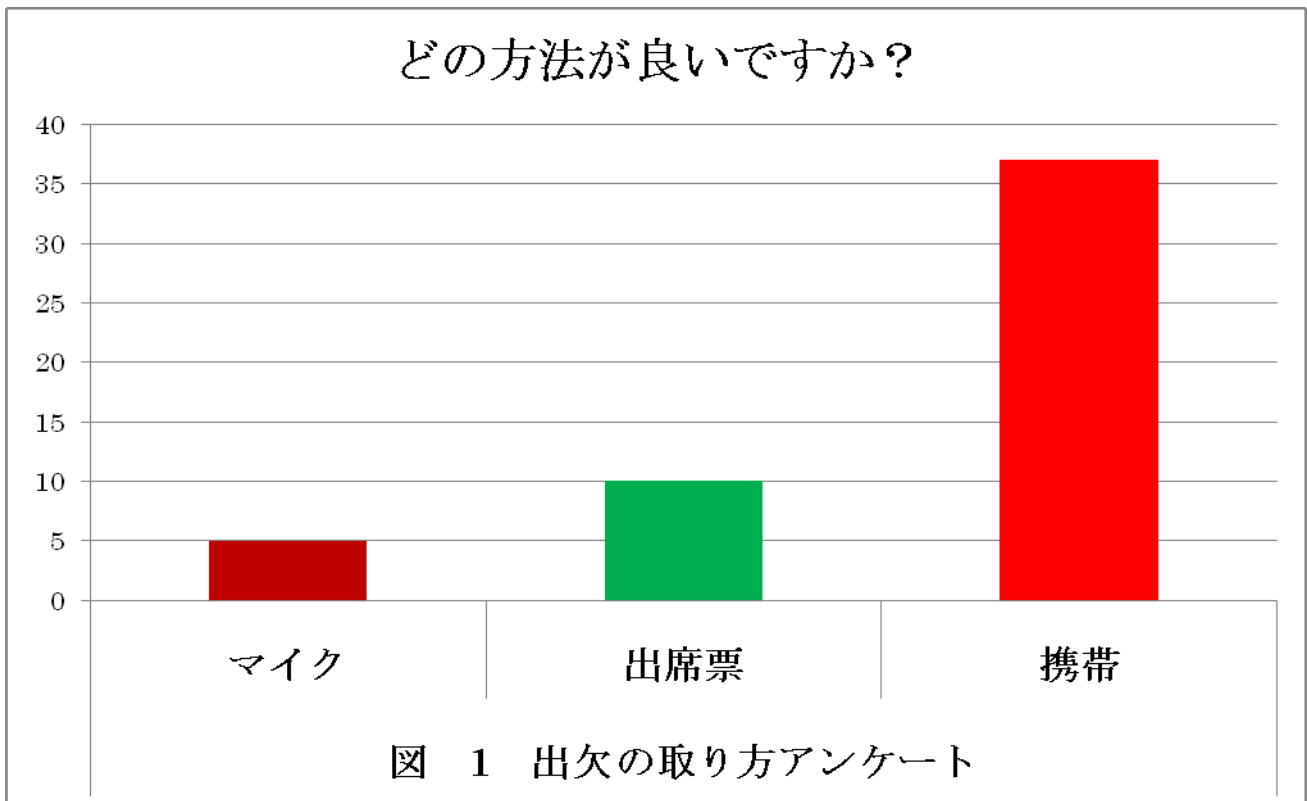
- (1) 学生の基礎学力不足の学生もいる。
- (2) 講義中の私語・途中退出等をする学生もいる。

### 5. 4.の教師 (皆川) の問題点克服方略

- (1) ヴォイスレーニング教室に通った。(\*約6か月)。
- (2) 要点のみをプロジェクターで映し、わかりやすい説明を行う。
- (3) 携帯活用 (Cラーニング) を行う。

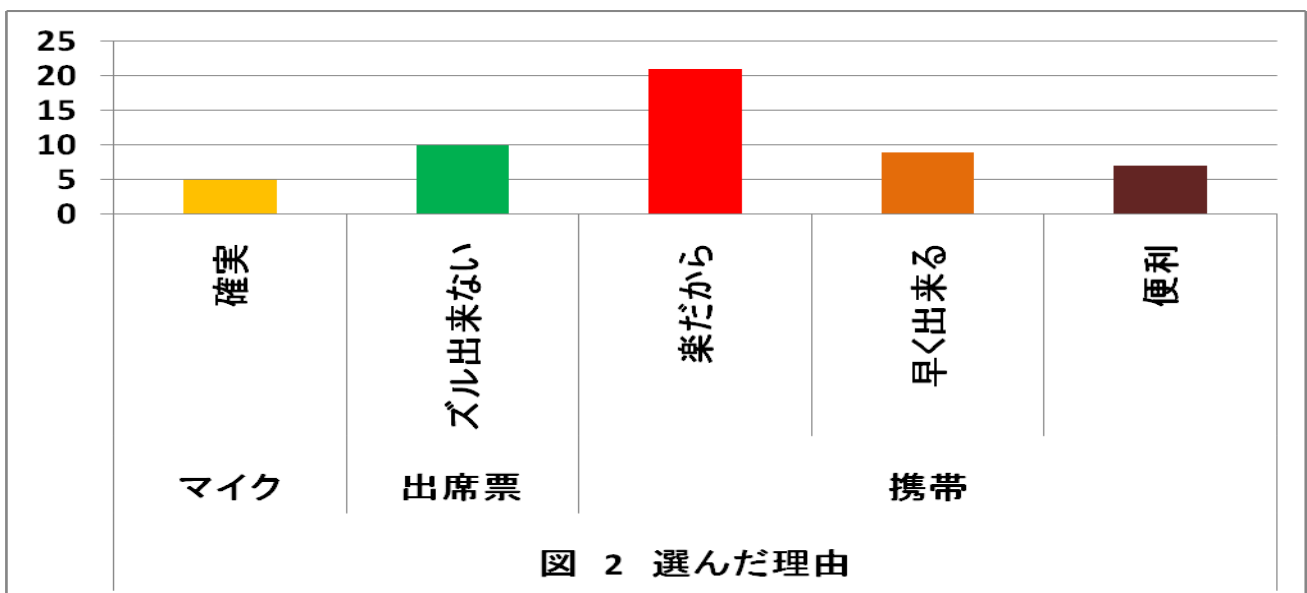
## 6.結果

(1) 出席の取り方アンケート・・・携帯への違和感の有無を調べる。



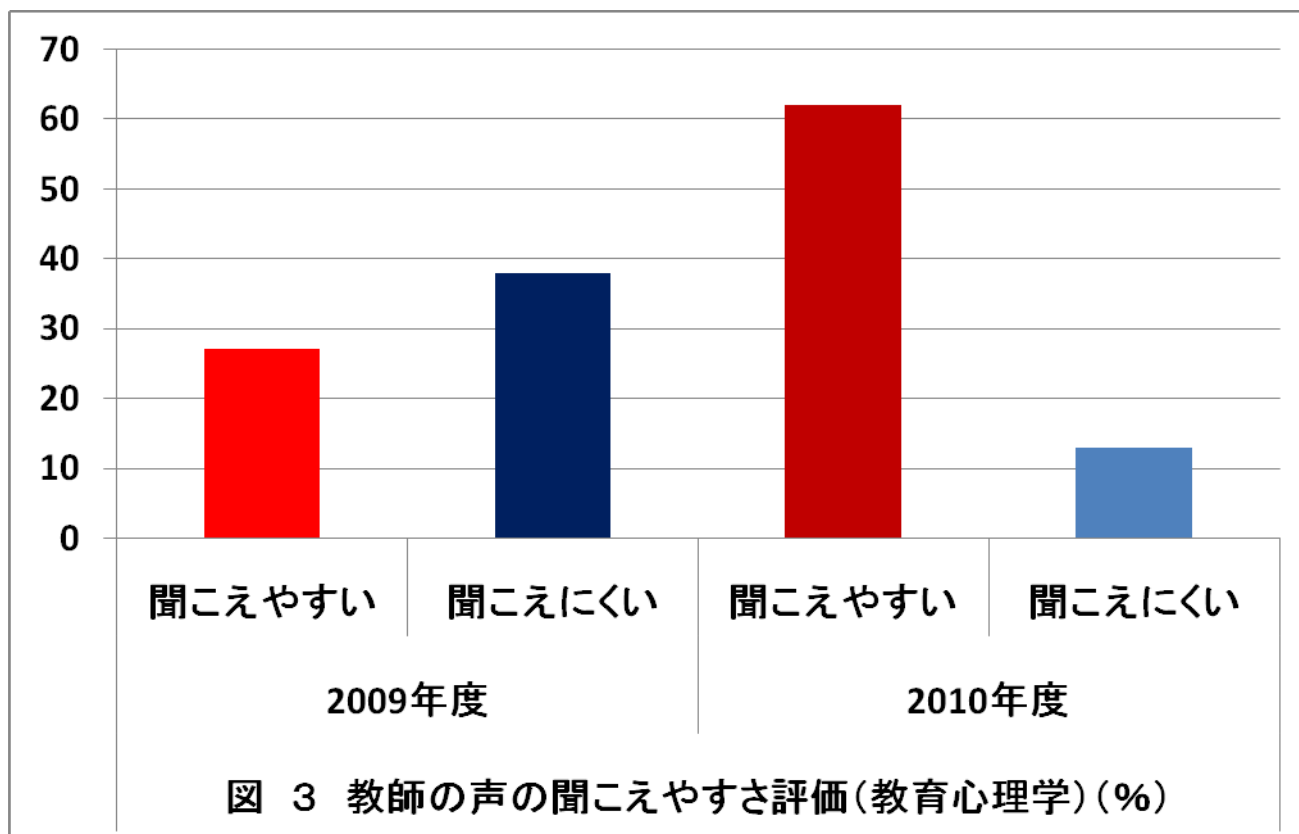
携帯使用支持が最も多かった。

(2) 選んだ理由

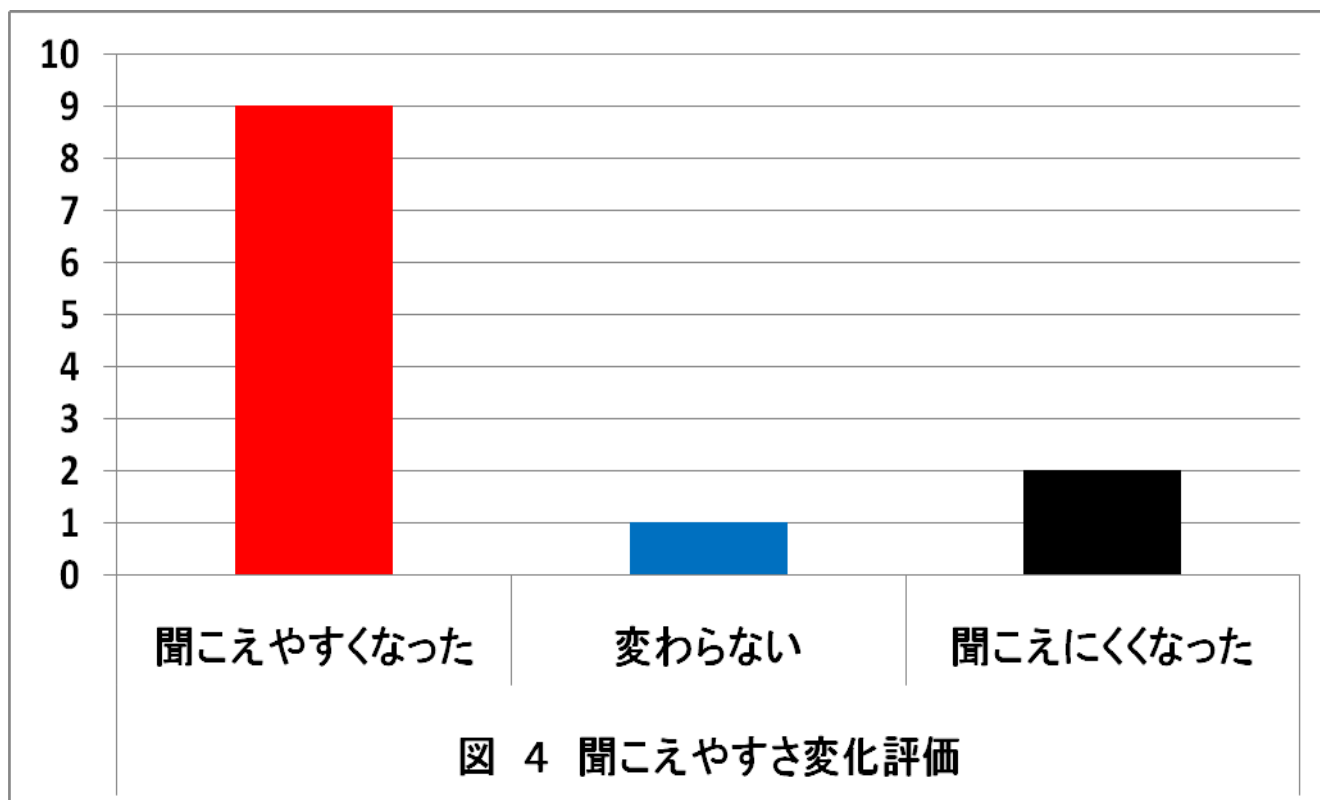


携帯が「楽(らく)」で「便利」と評価されていた。

(3) 声の聞こえやすさの変化(皆川)

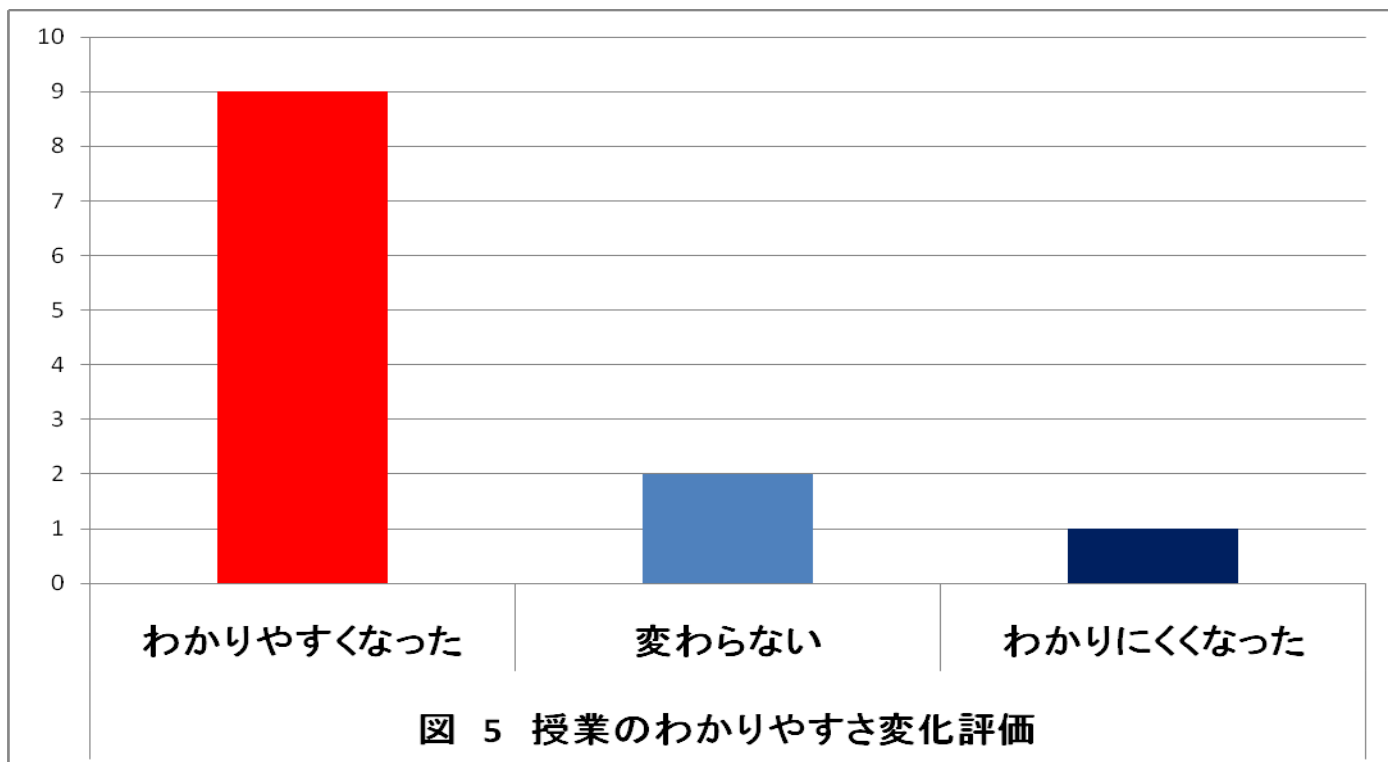


(4) 声の聞こえやすさ変化評価 (2010年度・過年度学生)

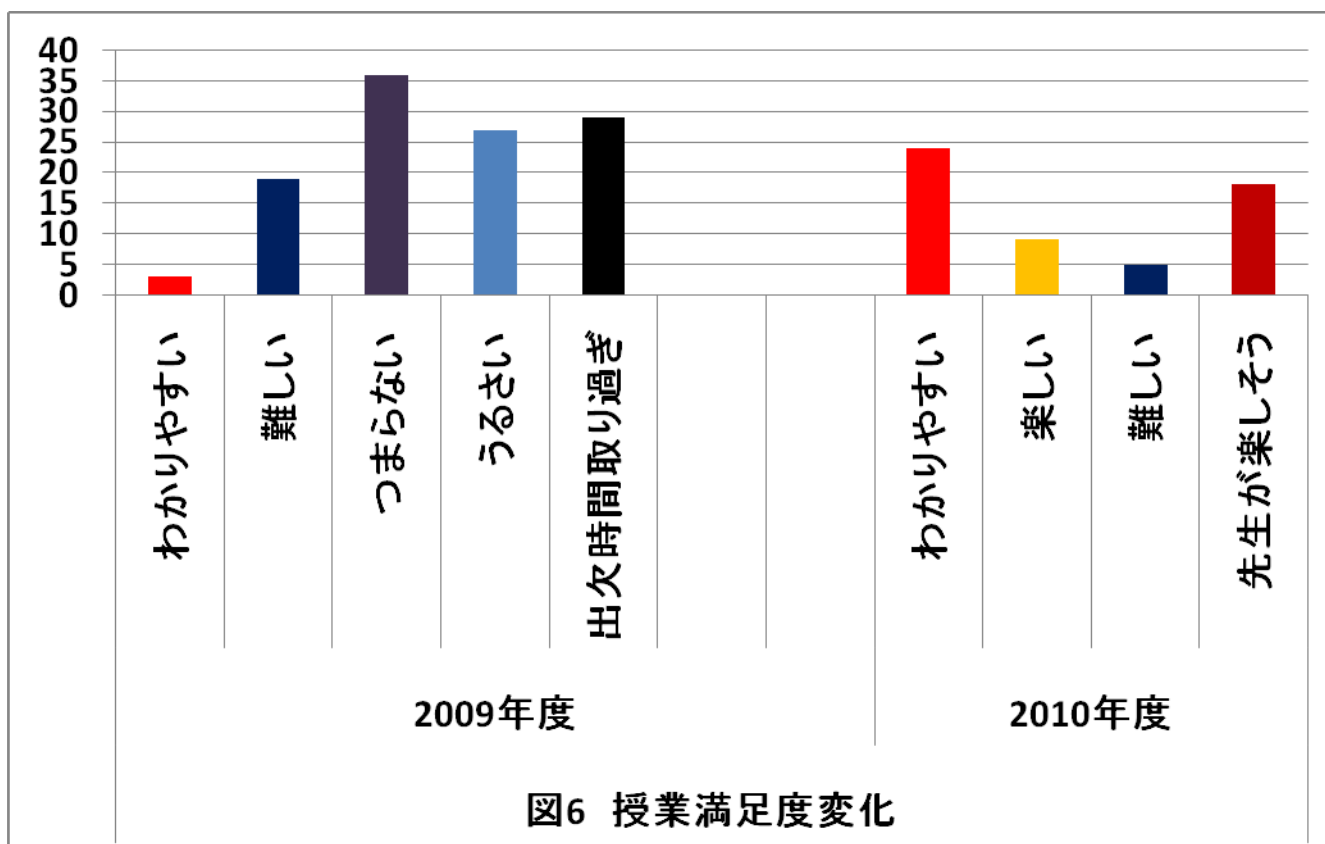


声が昨年(一昨年)と比べて聞こえやすくなった、と評価。

(5) 授業のわかりやすさ変化 (2010年度・過年度学生)

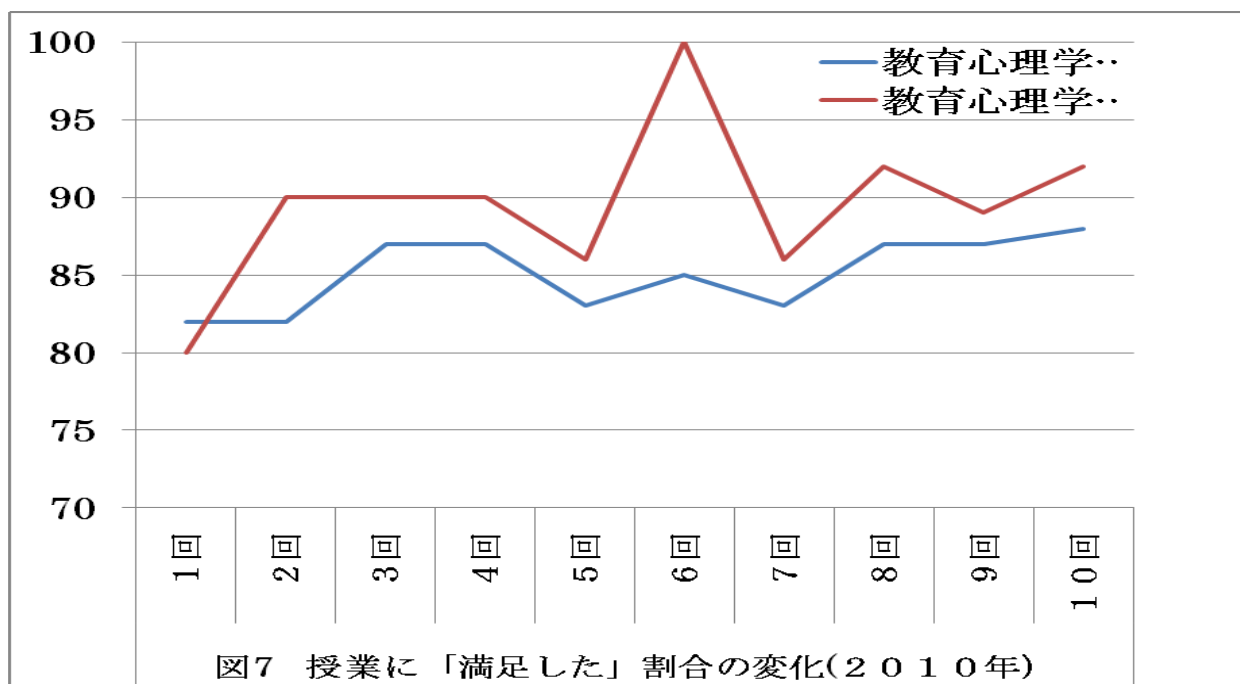


(6) 授業満足度変化



「わかりやすい」とともに、「先生が楽しそう」が増えたのが特徴的。

(7) 授業に「満足した」割合の変化 (2010年 教育心理学)



今年度は講義をすることにより、少しずつ「満足」が増えているようにも見える。

## 7.今後の課題

- (1) 基礎学力不十分な学生への対応

### 指導「認知構造の解析と指導」

学生たちの連想課題結果（2009年7月実施。30分間。A4白印刷用紙。刺激語は「教育心理学」）を解析し指導に役立てた。

【アンケート（印刷による）の結果】 教師への要望（例：「スクリーン近くの電球を消すのが遅すぎて見えない」「かつぜつが悪い」）

【結果と問題点】 知識が十分には体制化されていない。

- (2) 学習意欲自体も、やや不足気味の学生もいる。

- (3) 学生たちへの効果的な教授法の工夫と教授効果検証の問題と困難性。

昨年度の学生と今年度の学生に、同一問題・項目を使用して、教科の内容理解テストやアンケートを行っても、影響する要因が多く検定も困難。